



加須市

企業版ふるさと納税

～企業のチカラを 地域のチカラに～

Kazo City



絆でつくる 緑あふれる
安心安全・元気な田園都市 加須

イラスト 小春あや氏（イラストレーター・加須市観光大使）

市長あいさつ

本市では、これまで「女子野球の聖地」として、春の全国高等学校女子硬式野球選抜大会や夏の全国女子硬式野球ユース大会など様々な大会の開催や、女子選手の利用に配慮した環境整備など、女子野球の普及・振興の取組を着実に進めてまいりました。

そうした中、本市を拠点とする全国初のプロ野球チーム名を冠した「埼玉西武ライオンズ・レディース」の活動開始や（一社）全日本女子野球連盟による「女子野球タウン」の第1号に認定されるなど、女子野球を通じた地域活性化への期待が高まっていることから、関係団体とこれまで以上に連携しながら、女子野球をはじめとするスポーツの持つ多様な力を最大限に活かし、元気で活力あるまちづくりを推進してまいります。

つきましては、本市が目指すこれらの取組に対しまして、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



加須市長 角田 守良

加須市の紹介

加須市は、埼玉県北東部に位置し、関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流域にあり、歴史ある建物や祭事など、古き良き歴史を残しつつ、都市機能が集積する市街地と、その周辺に広がる水と緑の豊かな農村地域が調和する田園都市です。

都心から概ね 50 km圏内に位置し、茨城県、栃木県及び群馬県に接する関東のどまんなかという地理的環境の中、東北道加須インターチェンジを有し、羽生インターチェンジ及び圏央道白岡菖蒲インターチェンジにも近接する交通の要衝であるほか、都心まで電車で1時間弱と都心へのアクセスも良好です。

温暖な気候や快晴の日数が多いことが特徴で、豊かな自然に恵まれ、利根川や渡良瀬川の恵みにもたらされた埼玉県内一の生産量を誇る米どころであり、加えて、麦、そばなどの土地利用型作物やきゅうり、トマト、なす、いちごなどの施設園芸、なし、イチジクなどの果樹栽培、花卉、畜産に至るまで、多様な農業を県内トップクラスで展開しています。

また、「うどんのまち」、「こいのぼりのまち」としても有名で、さらには、「女子野球の聖地」、「クライミングの聖地」としても知られています。



女子野球をはじめとするスポーツを核とした活力と魅力あるまちづくりを目指して

本市では、これまで全国高等学校女子硬式野球選抜大会や全国女子硬式野球ユース大会を毎年開催するなど、「女子野球の聖地」として女子野球の普及・振興に取り組んできました。

また、全国で唯一の屋内4面クライミングウォールを有し、「クライミングの聖地」として、スポーツクライミングの普及・振興に取り組むとともに、マラソン、駅伝、トライアスロン、自転車競技など、全国・世界規模の大会を誘致・開催するほか、平成30年3月にリニューアルした加須きずなスタジアムや令和元年12月にオープンした加須スケートパークなどの市スポーツ施設、埼玉県サッカー協会が管理する彩の国 KAZO ヴィレッジなど、多くのスポーツ施設を活用しながら、スポーツを通じた若者が集う地域づくりに取り組み、令和2年3月には、スポーツを通じた活力と魅力あるまちづくりを実現するため、「スポーツ元気都市」を宣言しました。

こうした中、令和2年4月から埼玉西武ライオンズ・レディースが本市を拠点に活動を開始し、令和2年7月にその運営法人と連携協定を締結。令和2年11月には（一社）全日本女子野球連盟による「女子野球タウン」の第1号に認定されるなど、女子野球を基軸としたスポーツによる地域活性化への期待が高まっていることから、本市では、スポーツの持つ多様な力を最大限に活かし、スポーツを核とした活力と魅力あるまちづくりの推進に取り組んでいます。



女子野球を通して本市と共に地域活性化に取り組む団体



女子野球を通して地域活性化を目指す加須市を女子野球タウンに認定させていただき、加須市から全国や世界に女子野球を情報発信できるよう連携・協力し推進してまいります。

加須市の多くの球場が女子選手や観客なども含め利用しやすい施設にすることで女子野球が普及・振興の取組が推進されるものと存じます。 （一社）全日本女子野球連盟 代表理事 **山田 博子**



女子野球の普及・振興をしている加須市を本拠地に活動し、加須市と一緒に女子野球と加須市を盛りあげ、将来的には女子野球のプロ化も視野に推進しています。

加須市で安心安全にプレーできる環境が充実することでさらに女子野球の振興が進むものと思います。

埼玉西武ライオンズ・レディース 監督 兼（一社）埼玉レディースペースボール 代表理事 **新谷 博**

（仮称）女子野球でつながる“ひと”も“まち”も元気プロジェクト

市、（一社）全日本女子野球連盟、埼玉西武ライオンズ・レディース、市民、スポーツ団体、企業、市内大学・高校等が一体となって連携しながら、「女子野球タウン」として、スポーツの持つ多様な力を最大限に活かし、**「女子野球の普及・振興によるまちおこし」「女子野球チームのプロ化を見据えた環境づくり」「スポーツを通じた女性の活躍推進」とともに、「市民スポーツの推進」「全国・世界規模のスポーツ大会の開催」**に資する継続的な取組を通じて、『女子野球を基軸としたスポーツによる持続的なまちづくり・地域活性化』の推進を図ります。

【社会的効果】

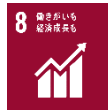
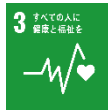
- ・スポーツ参画人口・関心層の拡大
- ・スポーツに親しむことによる運動の習慣化、健康の維持・増進
- ・スポーツ観戦・応援を通じた地域愛着の醸成
- ・女性の活躍推進による女性に選ばれるまち
- ・市の魅力アップによる交流人口の拡大、定住促進

【経済的効果】

- ・地域の広告塔である地域密着型球団と連携した地元産品や観光地のPRによる地域ブランドの向上
- ・「かぞブランド」等の地元産品の新たな付加価値の創出による販売促進・地元産業の活性化
- ・女子野球タウンとしてのまちおこしによる市内消費（飲食、物販、観光など）の喚起・増大

女子野球でつながる“ひと”も“まち”も元気プロジェクトの5つの柱の主な取組

関連する主な SDGs



❖女子野球の普及・振興によるまちおこし

田ヶ谷サン・スポーツランド野球場を改修し、女子選手が快適で使いやすい施設へとリニューアル※

田ヶ谷サン・スポーツランド野球場では、全国高等学校女子硬式野球選抜大会や全国女子硬式野球ユース大会、ヴィーナスリーグなど、多くの大会が開催されていますが、施設の老朽化が進行していることから、老朽化した施設の改修とあわせ、女子選手の利用に配慮した更衣室やトイレの改修など、女子選手が快適で使いやすい施設へと改修します。



小・中学、高校、大学、社会人の各世代の女子野球チームがそろう女子野球タウンの実現※

市内では選抜大会やユース大会、ヴィーナスリーグ、スポーツ少年団女子団員軟式野球交流大会など、数多くの女子野球の大会が開催されており、引き続きこれらの大会を開催できるよう老朽化した市内球場を改修するなど、小学生から社会人の大会まで幅広く開催できる環境づくりに取り組みます。



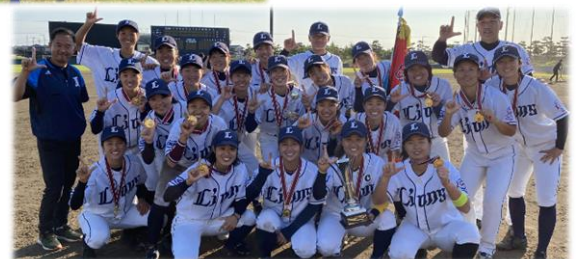
女子野球タウンの認定を契機としたスタートイベントとして女子野球フェスタを開催

女子野球を応援する機運の醸成に向けたスタートイベントとして、女子野球フェスタを開催し、元プロ野球選手による女子野球教室や女子アスリート指導経験者による「女子野球の指導」の知識・ノウハウに関する講演会を行い、市の女子野球の底上げを行います。



市内の観光地や地元産品と女子野球とのコラボによる新たな付加価値の創出

女子野球タウンとして、女子野球の普及・振興のみならず、市内の観光地や地元産品と女子野球とのコラボなど、他産業との融合により新たな付加価値を創出することで、市の魅力や地域ブランド力を向上させ、スポーツを通じた地元産業の活性化を図ります。



◆女子野球チームのプロ化を見据えた環境づくり

有料試合に対応した加須きずなスタジアム観戦スタンドの整備※

レベルの高い試合を市民や女子野球ファンが間近で観戦できるよう、有料試合への対応を想定した加須きずなスタジアム観戦スタンドの整備や安全確保のための防球ネット増設など、女子野球チームのプロ化を見据え、埼玉西武ライオンズ・レディースのホームグラウンドとしての機能拡充を図ります。

女子野球 U18 等の合宿・キャンプの誘致による交流人口の拡大

交流人口の拡大や、にぎわいの創出・市内消費の喚起により地域活性化を図るため、既存の施設（民間の宿泊施設を含む）の中で対応できる範囲で、女子野球 U18 等の合宿やキャンプの誘致を地域と一体となって取り組みます。

◆スポーツを通じた女性の活躍推進

女子野球タウンとしての強みを活かした女性のスポーツへの参加促進

女子野球をはじめとするスポーツの楽しさや魅力を情報発信するとともに、女性が利用しやすい施設への改修を行うなど、女性が気軽に参加できるスポーツ機会の充実・環境づくりに取り組みます。

女性が輝く社会をテーマとした講演会・セミナー・フォーラムの開催

加須市男女共同参画市民企画委員の企画運営により開催する講演会・セミナー・フォーラムにおいて、スポーツを通じた女性の活躍推進をテーマに、女子野球選手のほか、スポーツ選手や監督などから講演いただき、女性が輝く社会の推進を図ります。

◆市民スポーツの推進

「する」「みる」「ささえる」といった多様なスポーツへの市民の参画機会や場の充実

「する」「みる」「ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、楽しさや喜びなどを感じることができるよう、誰もが日常的にスポーツに参画する機会や場の充実を図ります。

市民スポーツの拠点として市スポーツ施設等の活用・機能充実

市スポーツ施設、学校体育施設の機能充実のほか、埼玉県サッカー協会が管理する彩の国 KAZO ヴィレッジなどの民間スポーツ施設の活用を図りながら、スポーツに親しむ環境を充実します。

◆全国・世界規模のスポーツ大会の開催

「クライミングのまち」としてスピード競技専用壁の設置によるクライミング施設の充実※

新たにスピード競技専用のクライミング壁を設置するなどクライミング施設の充実を図り、世界・全国規模の大会の誘致に取り組みます。

自転車競技、マラソン、駅伝、トライアスロン、ボクシングなど、様々なスポーツ大会の誘致・開催

全国・世界規模のスポーツ大会を開催してきた経験を活かし、今後も自転車競技をはじめ、マラソン、駅伝、トライアスロン、ボクシングなど、大規模なスポーツ大会の誘致・開催ができるよう施設などの充実を図ります。



※の取組は企業版ふるさと納税の寄附額に応じて実施することを想定しています。

❖ 安心安全でいきいきと暮らせるまちづくり事業

「埼玉県一の健康寿命のまち」を目指し、健康寿命の延伸に向けた取組の推進

「埼玉県一の健康寿命のまち」を目指し、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持てるように、病気の予防、食生活の改善、運動の習慣づくりやこころの健康づくりなどへの支援を拡充し、生涯にわたりいきいきと健康で暮らせるように取り組みます。



自主防災組織の設立や活動への支援による地域の更なる防災力の向上

大規模災害から人命と財産を守るため、迅速で的確に行動できるように、市内全ての自治協力団体において、共助の要である自主防災組織の設立や避難訓練等の活動を支援し、地域の更なる防災力の向上を図ります。



❖ 魅力と活力を生む産業のまちづくり事業

農業経営の安定化・効率化に向けた農地集積やほ場拡大による大区画化への支援

意欲ある農業者への農地の利用集積やほ場の拡大を図るため、支障となる畦畔の除去と整地に係る費用の一部を助成し、作業効率の向上並びに農業機械の大型化及び農地流動化の推進を図り、本市の基幹産業である農業経営の安定化・効率化を図ります。



チャレンジ意欲のある事業者に対する経営面や販路拡大への支援

市の創業支援等事業計画に基づく特定創業支援等事業を受け、市内で創業する方に対し、経営面や販路拡大への支援として、創業に係る経費の一部を助成することで、チャレンジ意欲のある事業者の育成支援を図ります。



観光サイクリングのブランド化による交流人口の拡大

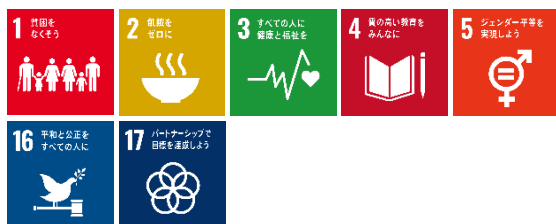
本市は関東のどまんなかに位置し、平坦な土地がサイクリングに適しており、また、日本一長い利根川自転車道やサイクリングのメッカである「渡良瀬遊水地」を有していることから、この優位性を活かして、「観光サイクリング」のブランド化を推進し、通年で訪れることのできるサイクリング適地としての認知度を高め、交流人口の拡大を図ります。



◆未来へつなぐ人を育むまちづくり事業

子ども食堂やフードパントリーの取組への支援による子どもの貧困対策の推進

子ども食堂やフードパントリーを実施している団体と定期的に情報交換を行い、その運営者と顔の見える関係を築きながら、取組への支援を行うなど、食材提供等の支援の輪を広げ、子どもの貧困対策の推進を図ります。



英語に触れる機会の充実と英語によるコミュニケーション能力の向上への支援

英語に興味・関心の高い生徒に対し、英語に触れる機会を設定することで、英語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を目指すイングリッシュサマーキャンプ（ブリティッシュヒルズ）を開催します。



◆豊かな自然と快適な環境のまちづくり事業

さいたま緑のトラスト保全 10 号地等に指定されている「浮野の里」の環境整備による自然環境の保全

トキソウ、ノウルシ、花しょうぶのほか、江戸時代の新田開発の名残をとどめる田堀やクヌギ並木、屋敷林、ヨシ原等の貴重な自然や歴史が点在する「浮野の里」の田堀の改修・クヌギ並木の木々の剪定などの環境整備を行います。



地球温暖化への対応として、再生可能エネルギーの導入による低炭素社会の構築

災害時の避難場所を兼ねる公共施設を中心に再生可能エネルギーである太陽光発電やバイオマス発電を導入することで、エネルギーを創出し、低炭素社会の構築とともに、安心安全な市民生活の確保を図ります。



◆協働による持続可能なまちづくり事業

行政手続等のオンライン化の推進及びデジタル技術の活用

マイナンバーカードの有効活用による行政サービスの拡大や行政手続等のオンライン化による利便性の向上、さらに、AI 等のデジタル技術を積極的に活用することで、窓口サービスをはじめとする市民サービスの向上を図ります。



新病院を核とした加須駅南口周辺地域の新たなまちづくり

本市の中核病院である埼玉県済生会加須病院の開院（令和 4 年 6 月）に伴い、新病院を中心とする加須駅南口周辺地域を本市の発展要因の一つとして捉え、新病院を核とした新たなまちづくりを推進します。



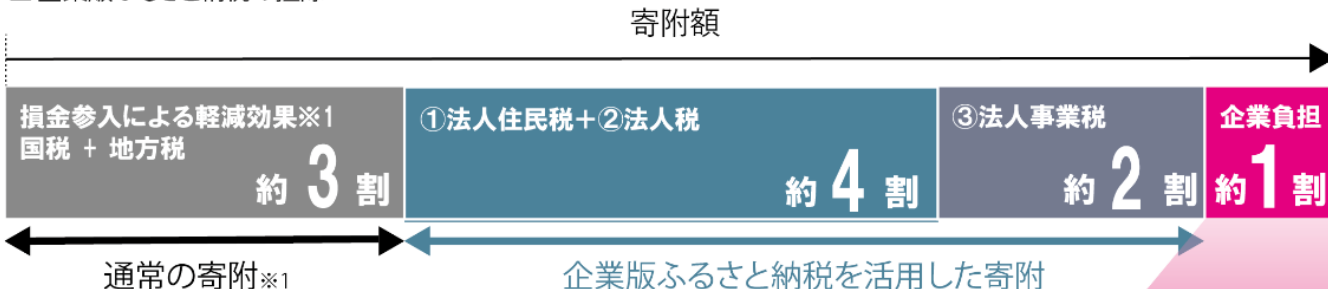
令和 3 年 3 月 31 日、加須市は国より地域再生計画の包括的な認定を受けていますので、第 2 次加須市総合振興計画（第 2 次加須市まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含）に位置付けられた事業は、企業版ふるさと納税の対象事業として検討させていただくことができます。

企業版ふるさと納税とは

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは、国が認定した地方公共団体の行う地方創生の取組に対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。

損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担を約1割まで圧縮することができます。

■企業版ふるさと納税の控除



※1 企業が地方公共団体に寄附した場合は、その全額が損金算入されるため、寄附額の約3割(法人実効税率)相当の税の軽減効果があります。

■税目ごとの特例措置

- | | |
|--------|---|
| ①法人住民税 | 寄附額の4割を税額控除(法人住民税額の20%が上限) |
| ②法人税 | 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。
ただし、寄附額の1割を限度。(法人税額5%が上限) |
| ③法人事業税 | 寄附額の2割を税額控除(法人事業税額の20%が上限) |

軽減効果最大
約9割に!

企業のメリット

- ☑ 社会貢献企業としてイメージアップ（SDGsの達成など）
- ☑ PR効果（市HPでの企業紹介など）
- ☑ 加須市とのパートナーシップの構築
- ☑ 地域資源を活かした新たな事業展開



寄附の流れ

- ①（企業）寄附の検討、寄附申出書を市へ提出
- ②（市）市が寄附申出書を確認し、寄附の払い込み時期について調整、充当事業の決定
- ③（市）市から企業へ寄附の払い込み方法（納付書による納付又は口座振込による納付）を案内
- ④（企業）企業から市へ寄附金を払い込み
- ⑤（市）市が企業へ寄附金の受領証を送付
- ⑥（企業）企業が租税の申告時に受領証を添えて、地方創生応援税制の適用がある寄附を行った旨を申告

留意事項

- ・1回あたり10万円以上の寄附が対象となります。
- ・各事業費の範囲内で寄附いただけます。
- ・寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。
- ・本社が所在する地方自治体への寄附は、本制度の対象となりません。

問い合わせ先



加須市役所 〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1

総合政策部 政策調整課

TEL：0480-62-1111

FAX：0480-62-5981

E-mail：seisaku@city.kazo.lg.jp